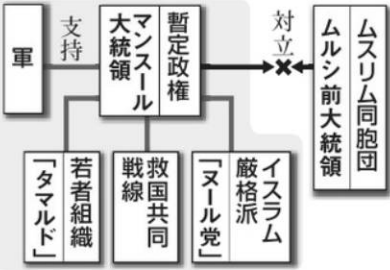


首相、組閣に着手

エジプト挙国一致は難航

エジプト暫定政権の首相に任命されたベブラウイ氏は10日、政権発足に向けた組閣に着手した。クーデターで崩壊したムルシ前政権に代わる暫定政権は、来年初頭に予定する大統領選までの統治を担う。しかし、暫定政権を支持する勢力の中にも不協和音が出ており、先行きは不透明な情勢だ。



エジプトの混乱をめぐる構図



エルバラダイ氏



ベブラウイ氏

マンスール暫定大統領は8日、軍主導の政権移行プ

ロセスをうたった「憲法宣言（暫定憲法）」を公表。9日には元財務相のベブラウイ氏を首相に、国際原子力機関（IAEA）前事務局長のエルバラダイ氏を外交担当の副大統領にそれぞれ起用した。

ところが、エルバラダイ氏が共同代表を務める世俗・リベラル勢力「救国共同戦線」は9日、憲法宣言の拒否を表明。10日に態度を

和らげたが、「一部修正を求めるとしている。若者組織「タマルド（反乱）」も「シャリア（イスラム

法）の諸原則が主な法源である」とうたう宣言第1条の修正を求めている。イスラム系のムルシ前政

権に反発してきた両勢力は、政権移行後も軍が政治に関与することを警戒、存在感を誇示して軍に圧力を

かける狙いとみられる。さらに、国民議会選（下院、現在解散中）で約25%を得票したイスラム敵格派「ヌール党」はエルバラダイ氏の首相起用に反対し、一時は暫定政権からの離脱を表明した。そもそも、世俗・リベラル派とは考え方が違うだけに、暫定政権にとって対立の火種となりかねない。

一方、ベブラウイ氏は、暫定政権の「挙国一致」ぶりを強調するため、ムルシ前大統領を支持するムスリム同胞団系「自由公正党」にも閣僚ポストを割り当てる意向とされる。ただ、同党は暫定政権自体が無効だと訴えており、10日、入閣の拒否を表明。さらに検察当局は、同胞団の最高指導者バディウ団長の逮捕を命じた。同胞団のさらなる反発は避けられない。

（カイロ＝北川学）